

Chapter 1

これがわかれば必ず上手いく CLASS II 成功のレシピ

- 成功の鍵 1 CLASS II は最も高難度の窩洞
 検査・診断 基礎資料を採取する
 術前処置 1 模型診断：術前の模型診断が治療の成否を決める
 術前処置 2 咬合接触点と対合関係を確認する
 術前処置 3 う蝕除去と形態修正を行う
 術前処置 4 隣接面充填のための前準備を行う
 充填ステップ 1 隣接面の充填ステップ
 充填ステップ 2 上部鼓形空隙を充填する
 充填ステップ 3 咬合面を充填する：咬頭と裂溝を狙った位置に充填するためのテクニック

Chapter1 モデル症例 FINAL CLASS II の仕上げり

Chapter 2

これがわかれば必ず上手いく CLASS III 成功のレシピ

- 成功の鍵 1 CLASS III は 2 つのパターンに分けて考える
 成功の鍵 2 窩洞がラインアングルを超えていない場合は、ベベルを付与する位置に注意
 成功の鍵 3 適切なマトリックスを選択する
 成功の鍵 4 歯間離開用器具を装着する
 成功の鍵 5 マトリックスのプレカーブを活かす

CLASS III パターン 1 窩洞がラインアングルを超えていない小さな窩洞の場合

- 充填ステップ 1 口蓋側からフロアブルレジンを充填する
 充填ステップ 2 マトリックスのプレカーブを活用して隣接面を充填する
 充填ステップ 3 光の透過を遮断するためにオペーク色を充填する
 充填ステップ 4 周囲と違和感がなくなるまでボディー色を充填する
 充填ステップ 5 唇側の最表層部にはエナメル色を充填する

CLASS III パターン 2 窩洞がラインアングルを超えている大きな窩洞の場合

- 成功の鍵 1 歯頸部の歯質を確認する
 成功の鍵 2 歯頸部の歯質が少ない場合の対処法
 成功の鍵 3 前準備として、歯間離開用器具を装着できるように歯頸部にレジンを充填する
 充填ステップ 1 マトリックスのプレカーブを活用して隣接面を充填する
 充填ステップ 2 口蓋側充填の前準備：唇側と口蓋側を遮断する壁を作る
 充填ステップ 3 口蓋側をペーストレジンで充填する
 充填ステップ 4 光の透過を遮断するためにオペーク色を充填する
 充填ステップ 5 周囲と違和感がなくなるまでボディー色を充填する
 充填ステップ 6 唇側の最表層部にはエナメル色を充填する

Chapter2 モデル症例 FINAL CLASS III の仕上げり (パターン 2)

Chapter 3

これがわかれば必ず上手いく CLASS IV 成功のレシピ

成功の鍵 1 CLASS IV はマメロン構造がポイント
 CLASS IV パターン 1 切縁に透過性がない：マメロン構造の再現が必要な場合

- 検査・診断 全顎的な診断のもと、診断用ワックスアップを行う
 術前処置 1 診断用ワックスアップをもとにシリコンガイドを作製する
 術前処置 2 ベベルを付与する
 術前処置 3 充填を行う範囲をシリコンガイドに印記する
 術前処置 4 ファウンデーションレイヤー (ライニング) を行う
 充填ステップ 1 シリコンガイドを用いて口蓋側のバックウォールを充填する
 充填ステップ 2 口蓋側の仕上げとして歯質とレジンのギャップをなくしておく
 充填ステップ 3 マトリックスのプレカーブを活用して隣接面を充填する
 充填ステップ 4 光の透過を遮断するためにオペーク色を充填する
 充填ステップ 5 周囲と違和感がなくなるまでボディー色を充填する
 充填ステップ 6 唇側の最表層部にはエナメル色を充填する
 仕上げ 形態修正・研磨を行う

Chapter3 モデル症例 FINAL CLASS IV の仕上げり (パターン 1)

CLASS IV パターン 2 切縁に透過性がある：マメロン構造の再現が必要な場合

- 検査・診断 術者自身で診断用ワックスアップを行い、形態をイメージしておく
 充填ステップ 4 マメロン構造を再現するためにオペーク色を充填する
 充填ステップ 5 切縁部分に、クリアー色の充填を行う
 充填ステップ 6 周囲と違和感がなくなるまでボディー色を充填する
 充填ステップ 7 唇側の最表層部には、エナメル色を充填する

Chapter3 モデル症例 FINAL CLASS IV の仕上げり (パターン 2)

Chapter 4

これがわかれば必ず上手いく CLASS V 成功のレシピ

- 術前処置 1 歯冠中央部のシェードを確認する
 術前処置 2 ベベルを付与する
 充填ステップ 1 歯質にファウンデーションレイヤー (ライニング) を行う
 充填ステップ 2 周囲と違和感がなくなるまでボディー色を充填する
 充填ステップ 3 唇側の最表層部には、エナメル色を充填する
 仕上げ 形態修正・研磨を行う

Chapter4 モデル症例 FINAL CLASS V の仕上げり

イラストで詳細に学べる！

窩洞別充填ステップ & テクニカルポイントの全て

Recipe for successful filling & Detailed technique 成功のレシピ & デテールテクニック

コンポジットレジン
積層充填

Layering Technique

著者オリジナルのイラストで解説しているから、細かいところまでよくわかる

窩洞別充填操作のテクニックの山場を計 39 本の動画で学べます。



CR 修復にこだわってきた著者が長年の経験と失敗から学んだ「誰もができるようになる」ノウハウとテクニックを

- ▶ 全顎的検査・診断
- ▶ 窩洞内での部位別レジンレシピ (フロアブルとペーストレジンの使い分け)
- ▶ 充填操作の細かい順序
- ▶ 充填前準備のための各種補助器具の使い方と工夫点
- ▶ 窩洞別失敗回避法、状況に応じた臨機応変な対処法

の観点ですべて大公開!

本体価格 9,900 円 (税込)、A4 変型、196 頁、ISBN 978-4-909066-68-8 C3047

著者 Profile



陶山新吾 (すやま しんご)
 福岡県久留米市
 陶山歯科医院 院長

<経歴>
 2004 年 福岡歯科大学 26 期卒業
 2004 年 福岡歯科大学 歯周病科入局
 2007 年 川崎歯科医院 (熊本市) 勤務
 2013 年 陶山歯科医院 継承
 2014 年 川崎塾 インストラクター

<所属学会>
 日本歯周病学会 会員
 日本口腔インプラント学会 会員
 日本顎咬合学会 会員
 日本臨床歯科学会 会員

注文票

品名	税込価格	冊数
成功のレシピ & デテールテクニック コンポジットレジン 積層充填	9,900 円	



インターアクション株式会社

東京都武蔵野市境南町 2-13-1-202
 TEL 070-6563-4151 FAX 042-290-2927
 http://interaction.jp

これがわかれば必ず上手いく！ 窩洞別成功のレジンの細かな組み合わせ&テクニック！

窩洞別成功の秘訣をピンポイントで解説しています

Layering Technique

CLASS II

時間がかかっても、隣接面の隔壁を形成し CLASS II を CLASS III に変える

成功の鍵1 CLASS II は最も高難度の高洞

トレーニングを積んで慣れるまでは、いきなり臨床で行うことは避けた

CLASS II は、①咬合に大きく関与している、②コンタクトポイントの付与が隣接面の適合が不良だと修正できないため、コンボジットレジン修復でも難易度の高い。そのため、しっかりトレーニングを積んで慣れるまでは、臨床で実践すること。失敗した時に患者の弊る不利益が大きすぎるからだ。

3 咬合面の解剖学的形態を熟知するためのトレーニング

NISSN のホームページに各種型歯の展開図が掲載されており、ダウンロードは図 1-2a) 展開図をダウンロードし keynote 上で咬合面をマスキングする(図 1-2b) スキップした図をプリントアウトして解剖学的形態の特徴を覚えるトレーニングを、繰り返し行った。



図 1-1 下顎左側第一臼歯をプロトタイプとしてトレーニングに使用する。下顎左側第二臼歯のMOB 隣接面の充填を行いコンタクトポイントを回復する。

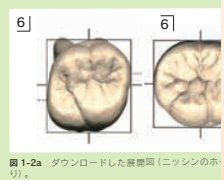


図 1-2a ダウンロードした展開図(ニッサンのホームページより)。

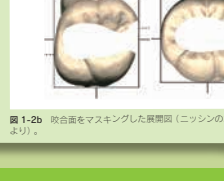


図 1-2b 咬合面をマスキングした展開図(ニッサンのホームページより)。

重要 筆者おススメ! 隣接面充填前準備のための専用器具



図 1-17 アダプトルセクタリオンマトリックス(3D トランススプレッド(透明)(Kerr)、歯型忠実に開いたカウンタが付与されており、原則に合わせて選択する。



図 1-18 Wedjets LATEX (COLTENE) X3 (ブルー) 奥歯(歯長軸) 直径 0.95mm x 高さ 2.1m、S (イエロー) 直径 1.50mm x 高さ 2.1m、L (オレンジ) 直径 1.80mm x 高さ 2.1m、の 3 種類のサイズがある。



図 1-19 アダプトルシーウェッジフィニッシングツール(Kerr)。歯型忠実にマトリックスを密着に固定する高強度プラスチック製のウェッジシステム。光照射時の光を乱反射し、光が到達しにくい隣接面の適合を可能にする。



図 1-20 歯間隙閉鎖コンタクトリング(バインタインリング(ダンビル社/モリム)、把持溝の 2 種類がある歯科用マトリックスクリヤー)。

重要 ウェッジの選び方の基本1 歯頸部の残存歯質が十分ある場合



図 1-28a 歯頸部に残存歯質が十分にある場合。

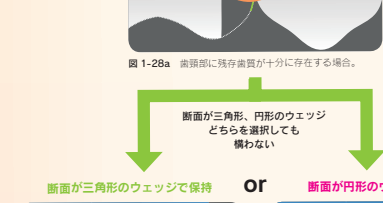


図 1-28b アダプトルシーウェッジで保持した状態。 図 1-28c ラバーウェッジで保持した状態。

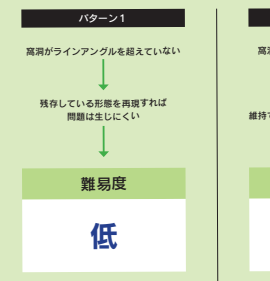
CLASS III

窩洞がラインアングルを超えている、超えていないかで難易度が変わる

成功の鍵1 CLASS III は 2 つのパターンに分けて考える

CLASS III は、ラインアングルがポイントで窩洞がラインアングルを超えているか、超えていないかで難易度とアプローチが変わる

ラインアングルは、前歯部歯冠形態を特徴づける重要な要素のうちの 1 つである。そこで、両者、



窩洞がラインアングルを超えているか否かで CLASS III の難易度が決まることに注意



重要 2 高洞がラインアングルを超えていない場合は、ペベルを付与する位置に注意



重要 マトリックスを歯面にしっかり適合させて形態を維持し、レジンが漏れないようにする



CLASS V

難易度は低いが明度に注意!

重要 明度を上げすぎないように注意する



図 4-1 歯頸部に不適合なレジン充填を認める。

重要 一本の歯として違和感がない状態にするためにペベルを付与する

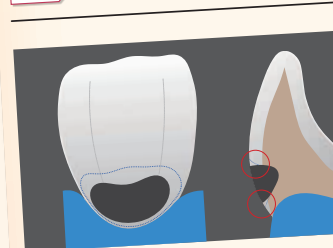


図 4-2 歯頸部の不適合なレジン充填を認める。

重要 過不足なく、移行的に充填する

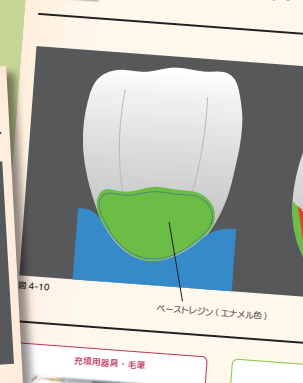


図 4-10 ペーストレジン(エナメル色)

充填用器具・毛筆

IPCT (マイクロチップ)

ブロー毛筆セット No.21 (トクヤママンタ)

ペーストレジン

エスラライトアステリア OCE (トクヤママンタ)

図 4-12

充填操作の山場は本文とあわせて、窩洞別に MOVIE でもチェックできる!

MOVIE 06 上部鼓形空隙の充填



MOVIE 07 裂溝となる位置まで窩底部を充填

